

(3) 赤堀家の家族全員会議

○菅ヶ谷地区のロングFIX
(※地図を合成して)

静岡県 牧之原市
菅ヶ谷

静岡県牧之原市の菅ヶ谷地区・・・。

○料理が並び、家族会議

親子三代にわたってお茶づくりをしている

○赤堀さんが報告中

赤堀有彦さんのお宅では、毎年、家族全員で
経営会議を開きます。

○九二男さんとお祖母さん

より良い茶園経営のため、先代の九二男さんくにおも

○九二男さんが話す

意見を出し合います。

○奥様・節子さん

奥さんの赤堀節子さん。

○長男・嗣人さんと
三男・久人さん

赤堀嗣人さん 赤堀節子さん 赤堀九二男さん
赤堀久人さん

長男の嗣人さんつくとと三男の久人さんひさと。

○皆揃っての会議の様子
○家族経営協定書を見せて

赤堀さんは、家族みんながやりがいを持って働ける
ように、家族経営協定書を作って、経営方針や役割
分担、労働条件などを取り決めていきます。

○二人資料を受取る

家族全員が社員として働いているのです。

○九二男さん資料を見る

赤堀さん『規模拡大する時に、どうしても基本は家族との

○赤堀さん

赤堀有彦さん 赤堀有彦さん

信頼関係をしっかりと結んでおかないと、

外へ向けてもそれが表にあらわれないと自分は
思っています。

今のところは上手くいっていると、思うんだけど
が、ははは。』

○奥様・節子さん

赤堀節子さん

節子さん『みんなで楽しく仲良く仕事ができている

雰囲気作りが出来たらなー、最高かなってー。』

○長男・嗣人さん

○心人からZIして

三男・久人さん

○赤堀九二男さん

赤堀嗣人さん

赤堀久人さん

赤堀九二男さん

嗣人さん『家族だけでなく、生葉を持って来てくれる農家たちとも、力を合わせて頑張っているのかなと思っっています。』

久人さん『お茶を作るのも、もちろんそうですけど、問屋さんだけじゃなく、普通に売るのもたくさん売っていったらなあーって。』

お祖父さん『将来はこの分でね、今の孫が2人しっかりして、るで、大丈夫だと思います。はいはいはい。』

(4) 茶樹の苗木づくり

- 家族みんなで挿し木用の苗木を作っている
- 手元のアップ
- 作った穂のアップ

- 赤堀さん苗床作り
- 苗床への水やり

- みんなで挿し木

- みんなの表情と手元UP

- 挿し木をしている皆さん

- 畑に定植された1年苗
- 畑にて赤堀さん

- 1年苗

- 3年苗の様子GS

- 3年苗の様子をアップで

- 1年生苗と3年生苗が植えられた茶畑の様子
広くみせて

三年苗 一年苗

家族総出で苗木づくりです。
お茶の樹は、現在では全て挿し木で増やしているのです。

ペーパーポットで苗床を作り、
作った苗木を、一本一本挿します。

約一年後、苗木がしっかり根付いてから茶畑に植えます。

赤堀さん『これは去年挿した苗木ですね、それを1年生と
いうことで今年の3月に定植しました。
こちらにあるちよつと大きなのが、これが
それから1年経ったものを定植したと。
ポット苗の苗づくりから始まって、4年経たないと
これが収穫できない、ということになりますね。
だから本当の人間でいうと、子育てをしてると
いう状態です。』

長い時間をかけて育てるお茶の苗木づくり、
本当に人間の子どもを育てているみたいですね。

(5) 茶樹の手入れ

<p>○施肥作業を行う嗣人さん</p> <p>○散布される薬剤</p> <p>○施肥作業の様子を 見せながら</p> <p>○赤堀さんお話し</p>	<p>○薬剤散布をする嗣人さん</p> <p>○赤堀さんお話し</p> <p>○薬剤散布作業の様子を 見せながら</p>	<p>○機械で畝間の手入れ</p> <p>○赤堀さん</p> <p>○畝の間の敷き藁の様子</p>	<p>○畝間を行く様子を広く</p> <p>○枝が露出してしまいう程 刈り取られてゆく様子</p> <p>○中刈り更新をする2人</p>
<p>施肥作業</p>	<p>薬剤散布</p>	<p>畝間の手入れ</p>	<p>中刈り更新</p>
<p>お茶の栽培には細かな手入れが欠かせません。さまざまな作業が待っています。</p> <p>赤堀さん『植物にとってね、施肥というものは大変重要なもので、植物の成長を助けることと出てくる芽を良質にするということ、この2つがあります。年間では6回から7回に分けて散布する訳ですけども、一番大切な一番茶、それから二番茶、この時に集中して散布するようにしています。』</p> <p>肥料と共に大切なのが、病虫害予防の薬剤散布です。</p> <p>赤堀さん『もう気温も暖かくなる、湿度も高くなってくると、ウンカ、スリップス、そういう害虫と、それから病気関係が出てくる訳ですね。その予防対策としてやっています。』</p> <p>畝間の手入れも、大切な作業だといえます。</p> <p>赤堀さん『茶の樹の1本と1本の間隔がね180cmで植えてあります。その内のこの畝間というのがたった30cm。ここに肥料を振ったり、敷き藁を敷いたりして土を軟らかくして有機物を施して、除草もするし、この管理によって大型機械も入るし、人間も作業がし易いし、ということになってますね。』</p> <p>およそ4年に一度行う「中刈り更新」。</p> <p>こんなに刈り込んで大丈夫なんでしょうか。</p>			

<p>○刈り取られた茶樹UP</p> <p>○中刈り更新作業の様子</p> <p>○刈られた木を見せて</p> <p>○話す赤堀さん</p> <p>○すっかり茶色になったお茶の列が並んでいる</p> <p>○刈られた茶畑を広く</p> <p>○茶畑の表情をいろいろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大茶園の風景 ・牧之原台地の茶畑風景 	
<p>赤堀さん『茶の樹が3年・4年すると枝が細くなって、良い芽が取れないと、それを若返りして、それからまたアノ丈夫な芽を出させる、ということですよ。』</p> <p>茶の樹の再生能力は凄いですね。</p> <p>この中刈り更新をした翌年の新茶というものが、凄く素晴らしい味と香りが出てきます。』</p> <p>枝がすっかり刈り取られてしまったお茶の樹。なんだか可哀想な気もしますが、これでまた元気を取り戻して、きれいな若葉をつけるんですね。</p> <p>来年の春を待つ茶畑は、静かに広がっています。</p>	